

第11 連結散水設備

問1 閉鎖型スプリンクラーヘッドを用いる連結散水設備の管口径は、いかにすべきか。

答 1の送水区域の散水ヘッドの取り付け個数に応じ、次の表に掲げる管の呼び径以上のものとする。★

| | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ヘッドの 合計個数 | 2個 以下 | 3個 以下 | 5個 以下 | 10個 以下 | 20個 以下 |
| 配管の 呼び径 | 32A 以上 | 40A 以上 | 50A 以上 | 65A 以上 | 80A 以上 |

問2 地階の床面積の合計が700㎡をこえる地階に50㎡以上のボイラー室又は200㎡以下の駐車場がある場合は代替設備は必要か、又屋内消火栓の有効範囲では不適合か。

答 前段 駐車場については連結散水設備の設置が必要である。また、ボイラー室については不燃性ガス消火設備（現 不活性ガス消火設備又はハロゲン化物消火設備）を技術上の基準に従って設置するよう指導されたい。

後段 認められない。（昭和48年10月23日付け消防予第140号）

問3 連結散水設備の設置にあたり、スプリンクラー設備が設置された有効範囲内は、連結散水設備を設けなくてもよいとされているが、階段室の扱いはどうするか。

答 階段室も除外して差し支えない。（昭和48年10月23日付け消防予第140号）

問4 規則第13条第2項第9号によりスプリンクラーヘッドを設けなくてもよい部分でも連結散水設備が必要になるが、この場合、連結散水設備の代替として閉鎖型スプリンクラーヘッドを設けてよいか。

答 閉鎖型スプリンクラーヘッドを設けるよう指導されたい。なお、この場合のヘッドの間隔、水源水量等に関する規定の適用については、閉鎖型スプリンクラーヘッドを設ける場合に準じて支障ない。

（昭和53年2月21日付け消防予第32号）

第12 連結送水管

問1 連結送水管の放水口は「・・・階段室・・・その他これらに類する場所で・・・」とあるが、階段室の出入口から5m以内の場所はこれに相当するものとして運用してよいか。

答 お見込みのとおり。★

問2 連結送水管、スプリンクラー設備の放水試験におけるノズル圧力及び放水圧力の設定について

答 連結送水管の放水圧力は、試験基準等によりおおむね0.3～0.35MPaとする。
スプリンクラーヘッドの放水圧力は、0.1MPa以上とする。
なお、スケジュール管の要否については規則第31条第5号ロの規定どおり0.6MPaである。

問3 連結送水管の表示灯及び湿式の指導について

答 (1) 延べ面積6,000㎡以上又は軒高31mを超える防火対象物は、放水口及び送水口にそれぞれ表示灯を設置するよう指導する。

なお、送水口については、スプリンクラー設備又は連結散水設備についても同様とするが、これらの送水口が連結送水管の送水口と近接して設置されている場合は、兼用を認めて差し支えない。★

(2) 延べ面積6,000㎡以上、又は軒高31mを超える防火対象物の連結送水管は湿式とするよう指導する。★

問4 連結送水管の補助高架水槽の容量について

前問3で湿式とする場合の補助高架水槽の容量についてご教示願いたい。

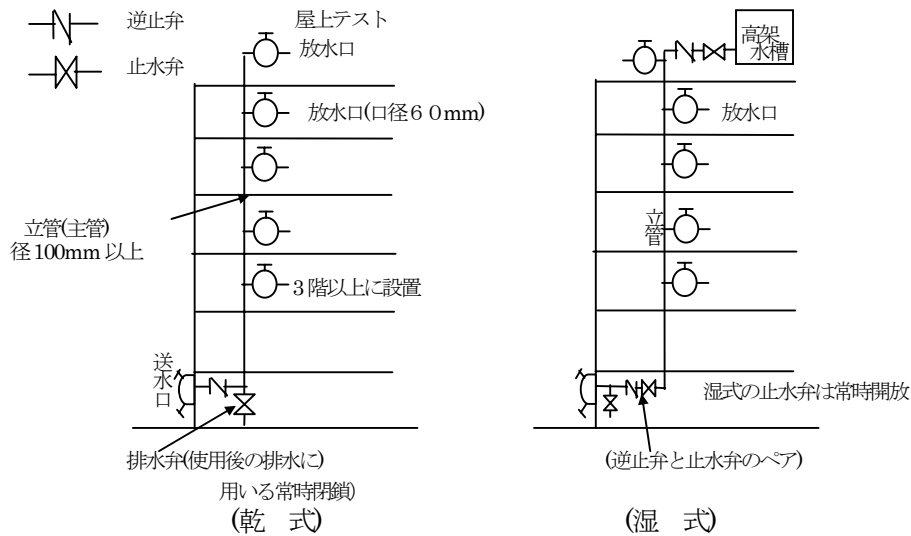
答 屋内消火栓設備の基準を準用し、容量を200リットル以上とし（ヘッダー方式等についても同じ。）、落とし配管は40A以上とする。★

問5 送水口の設置場所について「消防自動車容易に接近できる位置」とあるが、具体的にどの程度か。

答 歩行距離15m以下（ホース1本）の位置とされたい。★

問6 乾式及び湿式の場合のバルブの設置についてご教示願いたい。

答 乾式の場合は逆止弁を、湿式の場合は止水弁及び逆止弁を設けること。★



問7 (削除)

問8 放水用具格納箱は、階数3以内ごとにホース4本以上、筒先2本以上を設置することとされているが、各階にホース2本、筒先1本(可変ノズル)を設置するよう指導してよいか。

答 設問のとおり指導されたい。★

- 消防用設備等に係る執務資料の送付について
(平成14年9月30日付け消防予第281号)
(連結送水管の設計送水圧力の取り扱いについて)

問3 点検要領別添の連結送水管の機器点検「配管の耐圧性能」欄中「締切静水圧は、設計送水圧力(加圧送水装置を設けた場合は、締切圧力)とする。」とあるが、平成2年12月1日以前の連結送水管の設計送水圧力は法令上定めがないが、水圧はどの値とすべきか。

答 消防法第17条の3の2に規定する検査の際に用いた送水圧力とする。

(連結送水管の配管の耐圧性能試験について)

問4 点検要領別添の連結送水管の機器点検「配管の耐圧性能」欄中「屋内消火栓設備と当該配管を共用している部分を除く。」とあるが、連結送水管の送水口から送水口直近の逆止弁までの間の配管については、配管の耐圧性能を確認しなければならないということか。

答 お見込みのとおり。

第13 その他

問1 外壁で延焼のおそれのある部分にドレンチャー設備を設ける場合、圧力タンクの併設はいかにするべきか。

答 ドレンチャー設備には、圧力タンクを附置するよう指導されたい。★